

榊原弱者救済所の副産物 地元を広めた意外なもの

救済所の畑が大豊作に

常に50人から100人が暮らす救済所。幼児や老人、病人も多く、働ける人はわずかです。そこに差別やいじめはありませんが、毎日の食料の調達は大変な苦勞でした。

収容者の生活を支えるため、元気な男たちは日雇い仕事に出掛けます。救済所の畑や果樹の世話は女たちの仕事です。小さな子どもたちの面倒をみながら、せっせと畑仕事に励んでいました。しかし思ったほど作物は収穫できません。

それを知った金原明善は山崎延吉に相談。山崎は書生を連れて鴉根の救済所に。そして「作物が違う。葉物やジャガイモはやめなさい」「この土には大根やサツマイモがいい」。そして大根やサツマイモの栽培方法を教えてくれたのです。



「武豊たくわん」も救済所の副産物

山崎の指導で救済所の畑は一気に大豊作に。大根は見たこともないほど立派に育ち、サツマイモもジャガイモより5倍以上の収穫量です。畑に明るい笑い声が絶えません。

噂を聞いた成岩町の農家の人たちが様子を見に来ました。そして畑の変わり様にびっくり仰天。なんと農業のプロが救済所の女たちに栽培方法を教えてほしいと頼んだのです。

女たちは快諾。栽培方法を手にした成岩は一気に大根の大産地に。その勢いは隣接する武豊町へ。もともと大根漬が盛んだった武豊。そこに良質の大根の収穫です。たちまち味噌味の「武豊たくわん」はこの地を代表する

名産品になりました。

また、南知多町や美浜町は美味で良質なサツマイモの産地で有名ですが、これも大根と同様、救済所の副産物です。



山崎延吉は愛知県立農林学校初代校長。安城市一帯を農業先進地、「日本デンマーク」にしたのは山崎の農業改善の賜物。

鴉根の救済所には度々訪れ、鶏などの畜産や桑畑を作らせるなどして大いに支援した。

